

「ゲゲゲの鬼太郎」で まちおこし 鳥取県境港市

鳥取県境港市は、かつてはズワイガニや松葉ガニなど「おいしい海の幸」のイメージでしたが、今では「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめとする妖怪たちの活躍で、街は活気にあふれ、全国から多くの観光客が集まっています。今や境港市は、山陰の観光として外せない存在にまで有名になりました。「アニメやマンガによるまちおこし」に取り組んでいる自治体や商店街の中でも、最も成功している事例と言えます。

先日、私たち「わいわいタイムス」編集部が実際に境港市を訪ねましたので、そのレポートも兼ねて、境港市のまちおこしの成功の秘訣を探ってみましょう。



「目玉おやじ」の像



等身大の「ねずみ男」像と握手

境港駅前から続く全長800メートルの商店街には、鬼太郎、ねずみ男、目玉おやじなど有名な妖怪から、あまり聞いたことのないような無名の妖怪まで、153体の「妖怪ブロンズ像」があちこちに設置され、「水木しげるロード」と名付けられています。

◎妖怪ワールド「水木しげるロード」

ここには、ブロンズ像だけでなく、「妖怪絵タイル」や「妖怪レリーフ」、「妖怪ベンチ」など、いたるところに妖怪が出現し、これらの妖怪を発見して歩くだけでも、楽しく歩くことができます。

商店街の各店舗も、それぞれ「ゲゲゲの鬼太郎」や妖怪に因んだ飾り付けがされていて、お店の名前まで「ぬりかべ屋」「ゲゲゲのようかい村」など、ユニークな名前が付けられています。また、お店ごとに工夫した鬼太郎グッズがたくさん売られていて、例えば、お菓子屋さんには「妖怪饅頭」や「鬼太郎飴」、靴屋さんでは「鬼太郎のゲタ」、茶屋では「妖怪ラテ」など、1軒1軒入ってみたくなるような楽しいお土産がずらりと並んでいます。



「目玉おやじ」のお菓子



靴屋さんの入り口にはゲタが並び

お店以外にも、「妖怪お休み処 砂かけ屋」、「鬼太郎交番」、「鬼太郎郵便局」、そして銀行のキャッシュコーナーにまで妖怪が登場するという徹底ぶり。商店街全体が「妖怪ワールド」なのです。面白い観光スポットをいくつか紹介しましょう。

◆砂かけ屋

砂かけばあが覗く「妖怪お休み処」。この扉の先は、『妖界』なのだそう。

だから、人間は入れません！でも、外から



の撮影はOKだそうで、ここでパチリ。暗くなるライトアップされ、怪しげな影が動くか。こども、人気撮影スポットの一つです。

◆妖怪楽園

あちこちに妖怪がいて、記念写真を撮れるちょっとした公園と、お土産や食べ物売っているお店、休憩スペースもあり、とにかく楽しい場所。テールブルが一反もめんになっているのも面白い工夫。鬼太郎とねこ娘になりきった顔出し写真も撮れますよ。



◆とりぎん(鳥取銀行) キャッシュコーナー
やぶれ提灯がぶら下がり、一人で入るのはちょっと怖いような感じのキャッシュコーナー。「ATM周辺で妖怪に暗証番号を聞かれても決して教えないで下さい。」と、親切な立て看板もあつたりして、なかなか遊び心のある銀行さんです。



◆汚水枡の蓋

ふと足を止めると、汚水枡の蓋がとっても可愛いデザインでした。直径20センチほどで、鬼太郎、ねずみ男、一反もめん、ぬりかべ、子泣きじい、ねこ娘、砂かけばああの7種類があるようです。



同じように、マンホールの蓋も鬼太郎が一反もめんに乗って飛んでいるデザインになっています。

◎「水木しげるロード」成功の歴史と秘訣

漁業で発展した境港の商店街も70年代に入ると徐々に衰退し、空き店舗が増加していきました。そこで市は地元出身の著名人に、商店街活性化のための提言を求め、そこから出てきた案が、境港市出身の漫画家・水木しげるさんの代表作である『ゲゲゲの鬼太郎』や『河童の三平』などに登場する妖怪をモチーフにしたブロンズ像を商店街に設置し、「水木しげるロード」として整備するというものでした。

93年に23体のブロンズ像を設置してオープン。間もなく像の一部が盗まれるという事件が発生しましたが、これが全国ニュースで報じられたため、逆に知名度がアップしたようです。その後、徐々に像の数も増え、現在では153体になっています。

観光客数は、オープンした93年が約2万人、翌94年には10倍以上の28万人、97年には38万人へと増加していきました。03年には「水木しげる記念館」がオープン、07年には『ゲゲゲの鬼太郎』のテレビアニメシリーズの復活、実写映画の公開があり、翌08年には観光客数がついに100万人を突破して、172万人となり、鳥取砂丘を超える観光地になりました。さらに、10年にNHKの連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』が放送されると、なんと年間370万人を達成しました。

ここには大規模なテーマパークがあるわけではありませんが、一軒一軒のお店や、そこで働く人々がさまざまな工夫をして、妖怪ブロンズ像たちと一緒に、商店街全体として見事な「妖怪ワールド」を創りだしていることこそ成功の秘訣なのではないでしょうか。

◎「わいわいタイムス」1月号は1月15日(日)に発行予定です。